令和8年度オンライン研修

オンデマンド型

研修番号	タイトル	テーマ概要	主な受講対象者	キーワード	講師	時間
AK2621	多様な子どもを包摂する学校	今，学校現場では特別な教育的支援を必要とする子どもをはじめ，多様な子どもが在籍している。このような子ども達を包摂し，誰一人取り残すことのない学校作りが求められている。インクルーシブ教育の理念を実現するため，子どもの見方・考え方について学びを深めるとともに，学校の支援体制整備について考える。また，障害の有無にかかわらず，子どもが生きる力を身につけられるよう「エンパワメント」に着目した支援の在り方を考察する。	幼・小・中・高	・インクルーシブ教育 ・共生社会 ・多様性 ・障害理解 ・エンパワメント	藤井　慶博 （大学院教育学研究科 教授）	40分
AK2622	発達障害のある子どものコミュニケーション支援	自閉スペクトラム症のある子どもの認知特性やコミュニケーション場面の特徴を述べ，どのような支援が効果的であるのか，事例を交えて紹介します。	―	・自閉スペクトラム症 ・コミュニケーション ・認知特性 ・支援	鈴木　徹 （教育文化学部 准教授）	40分
AK2623	発達障害のある子どもの内面に目をむけるために大切なこと	発達障害のある子どもと「うまくかかわりたい」とどの教師も願っています。ただ、それは簡単なようで難しかったりします。障害特性を学んでもうまくいかないこともあります。本研修では、発達障害のある子どもとうまくかかわるためのヒントとなるような子どもの「ミカタ」をいくつか紹介します。	小・中・高・特別支援	・発達障害 ・内面 ・関係性	鈴木　徹 （教育文化学部 准教授）	40分
AK2624	カリキュラム・マネジメントと校内研究	各学校においてカリキュラム・マネジメントに取り組むことの重要性が指摘されています。カリキュラム・マネジメントは，管理職や主任だけが取り組むのではなく，すべての教職員にとって必要なもので，一つ一つの授業において，カリキュラム・マネジメントに対する「マインド」を持つことが重要です。この講座では，カリキュラム・マネジメントとして各学校がどのように研究にどう取り組んでいくかについて考えます。	―	・カリキュラム・マネジメント ・校内研究 ・学校教育目標 ・授業目標	細川　和仁 （大学院教育学研究科 准教授）	40分
AK2625	授業づくりと省察①：インストラクショナル・デザイン編	学習の効果，効率，魅力を高めることを目指した授業づくりについて考えます。この学習の効果，効率，魅力を高めることを目指した研究知見群を「インストラクショナル・デザイン」（ID）と呼びます。この講座では，IDの考え方に基づき，子どもたちの反応を予測しながら，授業の目標と内容と評価の整合性を高め，子どもたちの学習意欲を高めることについて考えていきます。	―	・インストラクショナル・デザイン ・授業設計 ・学習意欲 ・校内研究	細川　和仁 （大学院教育学研究科 准教授）	30分

研修番号	タイトル	テーマ概要	主な受講対象者	キーワード	講師	時間
AK2626	授業づくりと省察②:リフレクション・イン・アクション編	より良い授業を作っていくことが教師の専門性であるものの，どうやって授業力を高めていけば良いか，唯一の正解があるわけではありません。この講座では，授業を「省察する」方法について紹介します。この「省察」は一人で行う場合もあれば，同僚の先生と一緒に行う場合もありますし，外部の視点を取り入れるやり方もあります。研修したことを子どもの学びに生かしていく道筋について考えます。	―	・行為の中の省察 ・省察的実践 ・授業記録 ・校内研究	細川　和仁 （大学院教育学研究科 准教授）	40分
AK2627	子どもの自殺行動の背景理解と対応	日本の自殺，および子どもの自殺の現状について学んだうえで，自殺にかかわる心理状態について取り上げます。また，自殺と関連する精神疾患，自殺を予防する「防御因子」と促進する「危険因子」を理解した上で，自殺の対応について考えていきます。 子ども，そして保護者を守るために，自殺の表面的な現象だけでなく，背景を理解し，具体的な対応方法を考える力を身に着けていただきたいと思います。	小・中・高	・おとなの自殺 ・子どもの自殺 ・心理的背景 ・危険因子と防御因子 ・自殺対応	北島　正人 （教育文化学部教授）	120分
AK2628	縦断調査から見える中学校移行後の学校適応の実態：支援の「タイミング」に着目して	中学校進学後の不適応や不登校が増加し，その予防や支援について学校現場で多くの模索や検討がされてきた。学校現場では経験上，学期の始まり，夏休み前後，学年末など，特徴的な時期に応じた生徒指導の留意点が指摘されているものの，実証的な裏付けが足りず，時期と適応要因の関連性が明確に確立されていなかった。 そこで，中学校移行後の1年間に着目した縦断調査を通して，学校適応はどのように形成され，時期によって適応の関連要因はどのように変わるのかを詳しく見ていく。データに基づいて，中1の不適応や不登校の支援のタイミングについて考察していきたい。	小学校(高学年)・中学校	支援のタイミング 小中移行 不登校 縦断調査 中1ギャップ	ホウユエジャン （教育文化学部講師）	40分
AK2629	子どもの健康と安全を守るために ―熱中症対策を中心に―	学校生活では病気や事故などに繋がる様々なリスクが潜んでいます。例えば，夏季にはスポーツ活動（体育の授業，体育的行事，部活動など）における熱中症事故が全国各地で発生しており，その対策が重要な課題となっています。本研修では，熱中症発症に関わる要因や予防法，また熱中症が疑われる場合の対応などについて，最新の知見を交えて解説します。	―	・暑熱環境 ・運動 ・脱水 ・WBGT ・水分補給 ・身体冷却	渡邊　和仁 （教育文化学部准教授）	50分
AK2630	顕微鏡の世界	顕微鏡の世界の魅力についてお話します。まず顕微鏡の発明初期にまつわる2名の研究者を紹介します。つぎに生物学と芸術の接点についての大変面白いエピソードを紹介します。有名な画家と生物学者についてのものです。また，顕微鏡の正しい観察方法とメインテナンス方法を解説します。さらに，準備が簡単でありながら，児童生徒の興味をひくことのできる観察材料を紹介します。スマホ顕微鏡の作成方法も紹介します。クマムシを顕微鏡で観察する方法を解説します。	―	・顕微鏡 ・正しい観察法 ・興味をひく観察法 ・スマホ顕微鏡の作り方 ・クマムシ観察法	石井　照久 （教育文化学部教授）	100分
AK2631	算数・数学科の授業における効果的なICT活用について考える	GIGAスクール構想の実現に向けて，小・中・高等学校，特別支援学校の各教科等の授業において，児童生徒の資質・能力を一層確実にはぐくむために，効果的にICTを活用することが求められている。本研修では，ICTを，数学的に考える資質・能力をはぐくむことを支援する1つのツールとして位置付け，算数・数学の授業過程におけるICTを活用した指導法について考えることを目的とする。	小・中・高・特支（算数・数学）	・算数・数学教育 ・授業改善 ・ICT活用 ・GIGAスクール構想	加藤　慎一 （教育文化学部講師）	40分

研修番号	タイトル	テーマ概要	主な受講対象者	キーワード	講師	時間
AK2632	社会科授業における参加型学習の方法を考える ～主権者教育・法教育を例にして～	主体的に社会の形成に参画し、よりよい社会の形成に参画する資質 をどのように育成するのが良いのでしょうか。小中高等学校では授業変革が求められており、社会科の授業の中では「参加型学習」の必要性が高まってきています。参加型学習とは一般的に「学習者が学習過程に積極的に参加する学習形態」をさしますが、本講義ではそれを先に進めた社会を意識出来る社会参画を目指す授業を紹介します。近年注目の集まっている「主権者教育」から模擬投票と、「法教育」から模擬裁判について、具体的な教材例や現物教材を用いた活動を紹介した上で、実際の授業が構築出来るようにすることを目的とします。	小中高	・参加型学習 ・社会参加 ・主権者教育 ・模擬投票 ・模擬裁判	加納　隆徳 （教育文化学部 講師）	60分
AK2633	「不登校」児童生徒への対応	「不登校」の原因を，子ども本人の心や家庭環境などの問題に帰属させるのをやめませんか？ ここでは「不登校」を「当たり前のことができない辛さ」という視点から考えます。すると本人だけではなく，保護者や担任も同じように苦しむ姿が見えてきます。その上で，「不登校」を「元気のない状態」ととらえ，みんなで元気を引き出す方法を考えます。さらに，学校の中で「不登校」を巡って起こりやすい状況とその対応についても考えます。	全学校・全教科	・「不登校」 ・スクールカウンセリング ・社会構成主義 ・ナラティヴ・セラピー	柴田　健 （教育文化学部 教授）	30分
AK2634	運動部活動の地域移行について	近年、少子高齢化や教員の負担増加などを理由に、学校の部活動を維持していくことが困難な状況となっています。そこで、地域で子どもたちの活動機会を確保し、教員の負担軽減を図ることなどを目的として、部活動の地域移行が推進されています。 この研修では、主に秋田県内の運動部の事例を中心として、地域移行の取り組みの現状と課題、さらには運動部活動のあり方などについて検討したいと思います。（**※この動画は、令和6年度に撮影したものです。**）	小・中・高・ 特別支援	・スポーツ ・地域連携 ・縮小社会	伊藤　恵造 （教育文化学部 准教授）	50分
AK2635	ICTで変わる理科の授業と学びの世界	ICTを活用することで，今までではできなかった授業が展開できます。特に，理科の見方である「時間的・空間的な視点で捉えること」に大きく寄与します。このことについて，具体的な学習内容を挙げて活用例を紹介します。また，それを用いることによる深い学びについて提案します。	小学校教員・ 中学校 理科教員	・理科ICT ・ネットワーク ・遠隔操作 ・情報共有	田口　瑞穂 （教育文化学部 准教授）	30分
AK2636	子どもの声と多様性を大切にする発達支援 －北欧諸国の特別教育・特別ケアからー	北欧諸国（デンマーク等）の特別学校等への訪問調査の成果から、子ども一人ひとりを大切にする教育環境づくり、子どもの声に寄り添った信頼関係の構築、様々な特性や背景を持つ子どもたちの主体性や自己決定を大切にした教育実践を紹介します。また、各国でインクルーシブ教育が進む中での特別な学校の意義・役割についても検討します。	小・中・高・ 特別支援	・北欧諸国 ・特別学校 ・子どもの声 ・インクルーシブ教育 ・発達支援	能田　昴 （教育文化学部 講師）	60分